

2026年 3月期

第2四半期（中間期）決算説明会

2025年 11月10日

杏林製薬株式会社

代表取締役社長 荻原 豊



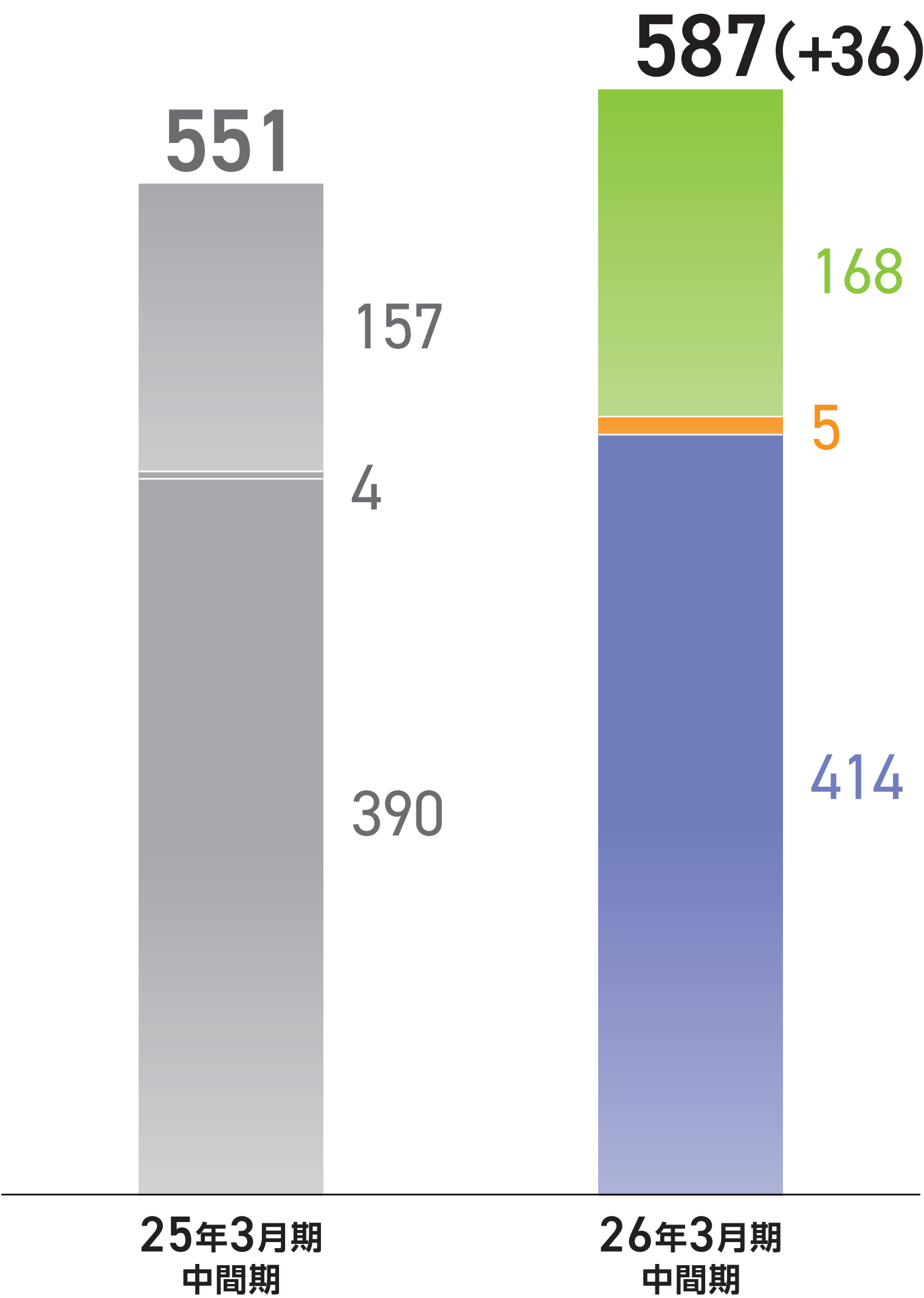
- 2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算の概況
- 2026年3月期 連結業績予想
- 中期経営計画「Vision110 –Stage1–」
 - 2025年度上期の取り組み
 - 研究開発パイプラインの状況
 - 主力製品の取り組み
- 株主還元について
- 政策保有株式縮減の進捗状況

■ 2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算の概況

(単位：億円)

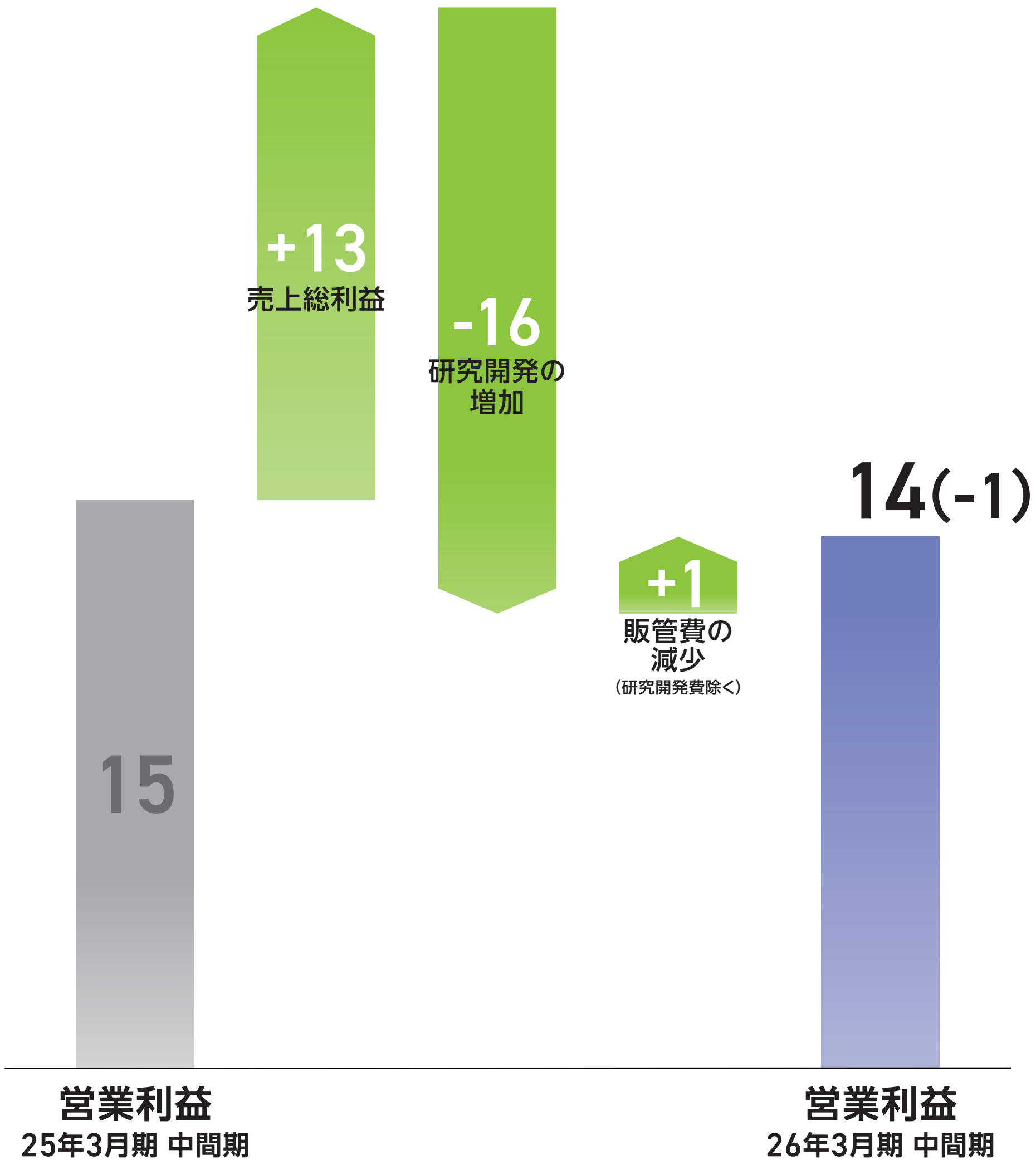
	25年3月期 中間期	26年3月期 中間期	対前年	
			増減額	増減率(%)
売上高	551	587	+36	+6.5
新医薬品等(国内)	390	414	+24	+6.1
新医薬品(海外)	4	5	+1	+18.8
後発医薬品	157	168	+11	+7.2
売上原価	316	338	+22	+7.2
売上総利益	236	249	+13	+5.7
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	220 (38)	235 (54)	+15 (+16)	+6.9 (+41.6)
営業利益	15	14	-1	-12.0
経常利益	21	16	-5	-22.8
親会社株主に帰属する中間純利益	13	15	+2	+19.0

(単位：億円)



(対前年)		
新医薬品等(国内)	414億円	+24億円
増加要因		
●新薬の伸長(ベオーバ、ラスビック、リフヌア等)		
減少要因		
●薬価改定(杏林製薬5%台)		
新医薬品(海外)	5億円	+1億円
後発医薬品	168億円	+11億円
●2024年度追補収載品の売上寄与		
●長期収載品の選定療養の影響等		

(単位: 億円)



売上総利益	249億円	(対前年) +13億円
-------	-------	-------------

売上高 36億円増加
売上原価率 0.3ポイント上昇

- 上昇要因
- 薬価改定(杏林製薬5%台)
 - 後発医薬品の売上増加
- 低下要因
- 新薬(ベオーバ、ラスビック、リフヌア等)の売上増加

研究開発費	54億円	+16億円
-------	------	-------

38億円(25/3期 2Q) ⇒ 54億円(26/3期 2Q)
●導入品の契約一時金支出(KRP-A225)15億円

販管費(研究開発費除く)	181億円	-1億円
--------------	-------	------

182億円(25/3期 2Q) ⇒ 181億円(26/3期 2Q)
●本社移転等によるコスト削減
●特許等使用料等の増加

(単位：億円)

	26年3月期 中間期予想 (25年5月12日発表)	26年3月期 中間期実績	対予想	
			差異	達成率(%)
売上高	574	587	+13	102.3
新医薬品等(国内)	407	414	+7	101.7
新医薬品(海外)	1	5	+4	504.1
後発医薬品	165	168	+3	102.0
売上原価	—	338	—	—
売上総利益	—	249	—	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	— (43)	235 (54)	— (+11)	— (126.6)
営業利益	17	14	-3	80.2
経常利益	18	16	-2	87.9
親会社株主に帰属する中間純利益	14	15	+1	106.7

予想(25年5月12日発表)との差異

売上高	ベオーバ等の新薬の伸長(国内)、ガチフロキサシンに関わる収入(海外)等により中間予想を上回った
営業利益	研究開発費にKRP-A225導入に伴う契約一時金支出(15億円)を計上し、3億円の未達
中間純利益	特別利益として、投資有価証券売却益4億円等を計上

2026年3月期 第2四半期(中間期) 主力製品の売上状況



(単位：億円)

		25年3月期 中間期実績	26年3月期 中間期実績	対前年		26年3月期 中間予想 (25年5月12日発表)	対予想	
				増減額	増減率(%)		差異	達成率(%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ(自社販売分)	104	123	+19	+17.5	116	+7	105.8
	ラスビック	30	35	+5	+19.0	37	-2	95.2
	リフヌア	4	5	+1	+9.9	5	0	93.2
	デザレックス	34	37	+3	+8.1	36	+1	101.8
	フルティフォーム	64	63	-1	-1.1	62	+1	101.8
	ペンタサ	62	63	+1	+1.4	59	+4	106.2
	キプレス	18	9	-9	-48.9	8	+1	117.2
	ムコダイン	15	20	+5	+30.2	22	-2	90.1
	ミルトン	9	9	0	+0.5	9	0	103.8
	ルビスタ	6	4	-2	-31.6	5	-1	81.6
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	50	44	-6	-12.8	49	-5	89.7
	モメタゾン点鼻液「杏林」	7	11	+4	+58.6	8	+3	140.0

■ 2026年3月期 連結業績予想

(単位：億円)

	25年3月期 (実績)	26年3月期 (予想)	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,301	1,270	-31	-2.4
新医薬品等(国内)	842	890	+48	+5.8
新医薬品(海外)	89	2	-87	-97.7
後発医薬品	371	377	+6	+1.7
売上原価	706	—	—	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	470 (105)	— (104)	— (-1)	— (-1.1)
営業利益	126	61	-65	-51.5
経常利益	132	63	-69	-52.3
親会社株主に帰属する当期純利益	91	48	-43	-47.2

(単位：億円)

		25年3月期 (実績)	26年3月期 (予想)	対前期	
				増減額	増減率(%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ(自社販売分)	221	251	+30	+13.7
	ラスビック	78	85	+7	+8.3
	リフヌア	9	11	+2	+20.4
	デザレックス	96	101	+5	+5.0
	フルティフォーム	137	132	-5	-3.9
	ペンタサ	122	116	-6	-4.7
	キプレス	35	21	-14	-40.0
	ムコダイン	36	52	+16	+45.8
	ミルトン	18	18	0	-2.3
	ルビスタ	11	10	-1	-9.7
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	120	113	-7	-5.6
	モメタゾン点鼻液「杏林」	41	43	+2	+4.5

■ 中期経営計画「Vision110 –Stage1–」 2025年度上期の取り組み

Vision 110

— Stage 1 —

医療ニーズに応える価値の高い新薬の創出力強化

導入による開発パイプラインの拡充

新薬比率の最大化

新医薬品事業と相乗効果のある健康関連事業の推進

持続可能な企業基盤の構築

医療ニーズに応える価値の高い新薬の創出力強化

創薬研究

創薬イノベーションによる創出力強化

価値の高い新規テーマの創出



基盤技術の強化

研究領域

疼痛

自己免疫疾患

神経筋疾患

神経筋疾患を創薬研究領域に設定

神経筋疾患

脳・脊髄・末梢神経など神経自体の病変
または筋肉自体の病変によって運動障害をきたす疾患の総称

- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)
- パーキンソン病
- 重症筋無力症
- 多発性硬化症
- 筋ジストロフィー
- 遺伝性ニューロパチー など

発症要因 遺伝子変異、自己免疫、老化、環境要因など

導入による開発パイプラインの拡充

Stage1
目標値

導入案件6件以上を目指す

2025年度
取り組み

早期に業績貢献が見込める品目(上市品を含む)を中心に
2件以上の導入品を獲得

2025年度
上期実績

1件導入
KRP-A225(HB2198,SLE等の新規治療薬候補)：2025年9月 Hinge Bio社より導入

対象疾患：全身性エリテマトーデス(SLE)

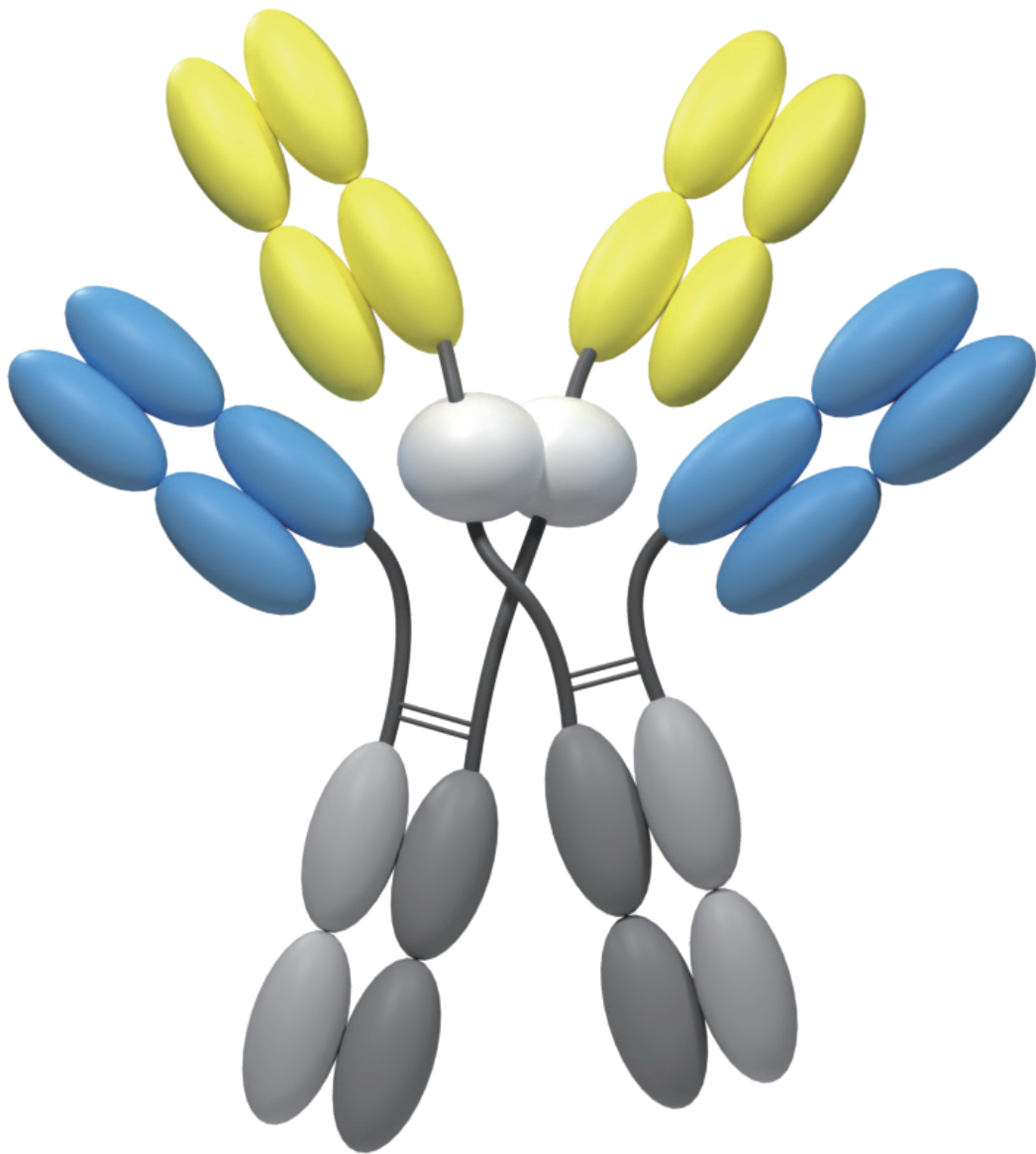
概要	●免疫異常により自己抗体が産生され、全身の臓器を障害する自己免疫性疾患のひとつ ●過剰に産生した自己抗体が免疫複合体を形成し、組織に沈着することで、炎症が惹起される ●指定難病
症状	ほとんどの患者に全身症状、皮膚、関節症状がみられる その他、ループス腎炎をはじめとする内臓症状、血管症状など多岐にわたり、症状や組み合わせには個人差がある
患者数	約6～10万人(想定) 医療受給者証保持者数：66,307人(2023年度) 有病率：10万人当たり20～150人※
現行治療	●ステロイド ●免疫抑制薬 ●免疫調整薬 ●生物学的製剤

※全身性エリテマトーデス診療ガイドライン2019

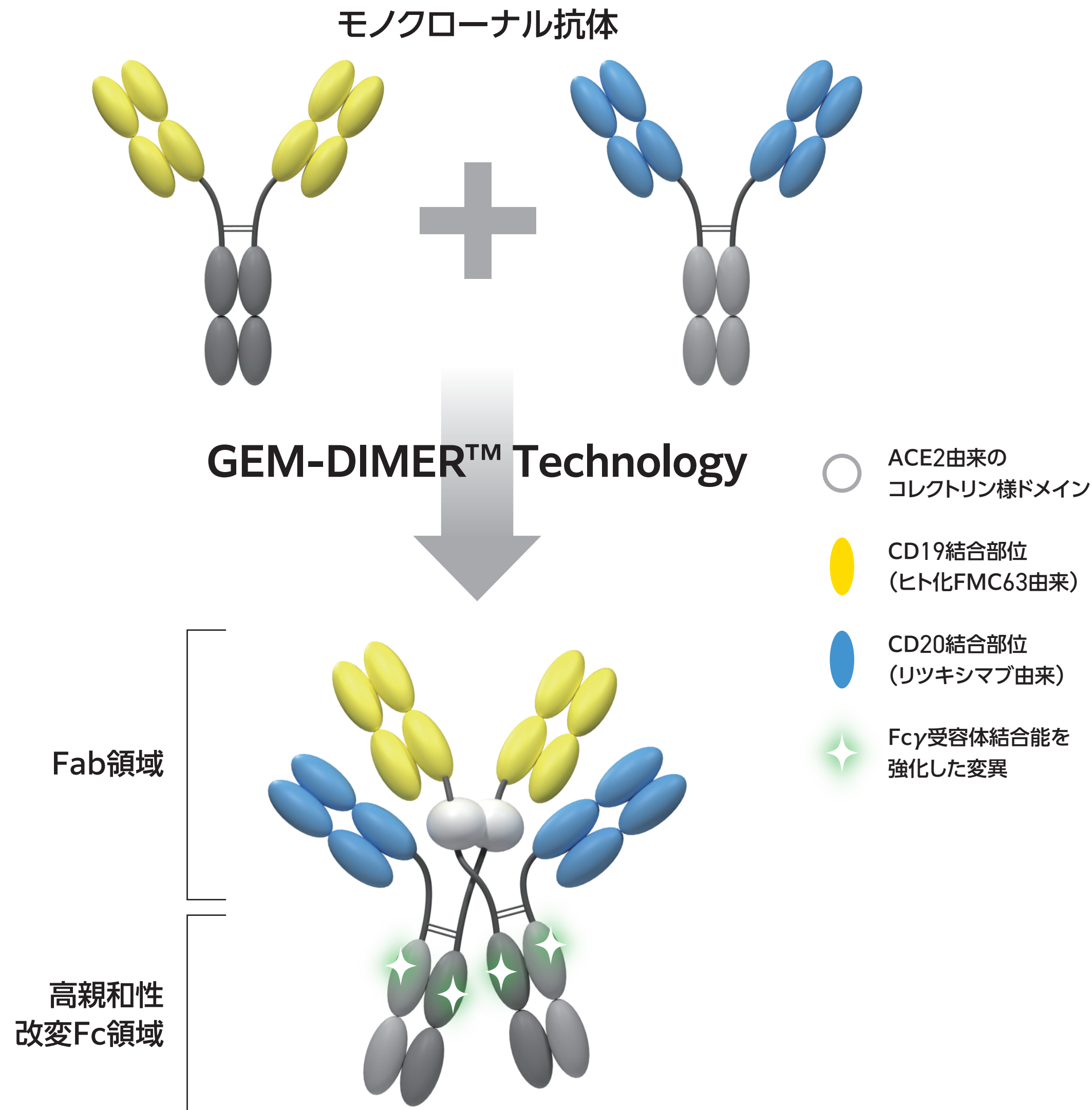
既存治療では十分に症状を抑制できないケースも多く、
新たな治療選択肢が求められている

KRP-A225 概要

対象疾患	全身性エリテマトーデス(SLE)等
作用機序	CD19及びCD20分子を標的とするヒト化二重特異性抗体によるB細胞の除去
ターゲットとする患者層	中等症、重症患者
剤形	点滴静注
開発状況	Ph1試験準備中(25年開始予定)
今後の方向性	Hinge Bio社が実施するPh1試験の結果をもって、進め方を検討



Hinge Bio社と協同して開発を進め、一日も早い上市を目指す



Hinge Bio社独自のプラットフォームであるGEM-DIMER™により創出された完全長IgG抗体での二量体構造を特長とするヒト化二重特異性抗体

SLEへの臨床有効性が検証されているCD19及びCD20分子を標的とし、循環血液、リンパ組織での迅速かつ強力なB細胞除去を期待

ACE2受容体由来コレクトリン様ドメインによる“Superdimerization”

高親和性改変Fc領域により、ADCC(抗体依存性細胞傷害)、ADCP(抗体依存性細胞貪食)、CDC(補体依存性細胞傷害)等の免疫エフェクター機能の強化が期待

通常の抗体医薬の製造プロセスでの製造が可能

研究開発パイプラインの状況

- 主要評価項目において統計学的な有意差は認められなかった
- 複数のアウトカムで臨床的有用性が示された

EFZO-FIT study 結果概要

目的	肺サルコイドーシス患者を対象に、Efzofitimodを静脈内投与したときの有効性及び安全性を評価する	その他 評価項目 (ノミナルp値)*	●48週時点でのステロイドフリー達成率 5mg/kg群：52.6% プラセボ群：40.2% p = 0.0919 ●KSQ-lungスコアのベースラインからの改善 5mg/kg群：10.36 プラセボ群：6.19 p = 0.0479 ●KSQ-lungスコア改善を伴うステロイドフリー達成率 5mg/kg群：29.5% プラセボ群：14.4% p = 0.0199
試験 デザイン	○無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較 ○用法・容量：Efzofitimod 3mg/kg、5mg/kg 又はプラセボを4週間隔で点滴静注投与	安全性と 忍容性	良好な忍容性、 これまでの知見と一致した安全性プロファイル
主要 評価項目	●OCS漸減終了後におけるOCSの1日平均投与量のベースラインからの変化量(48週時点) 5mg/kg群：-7.9% プラセボ群：-7.1mg p = 0.3313		

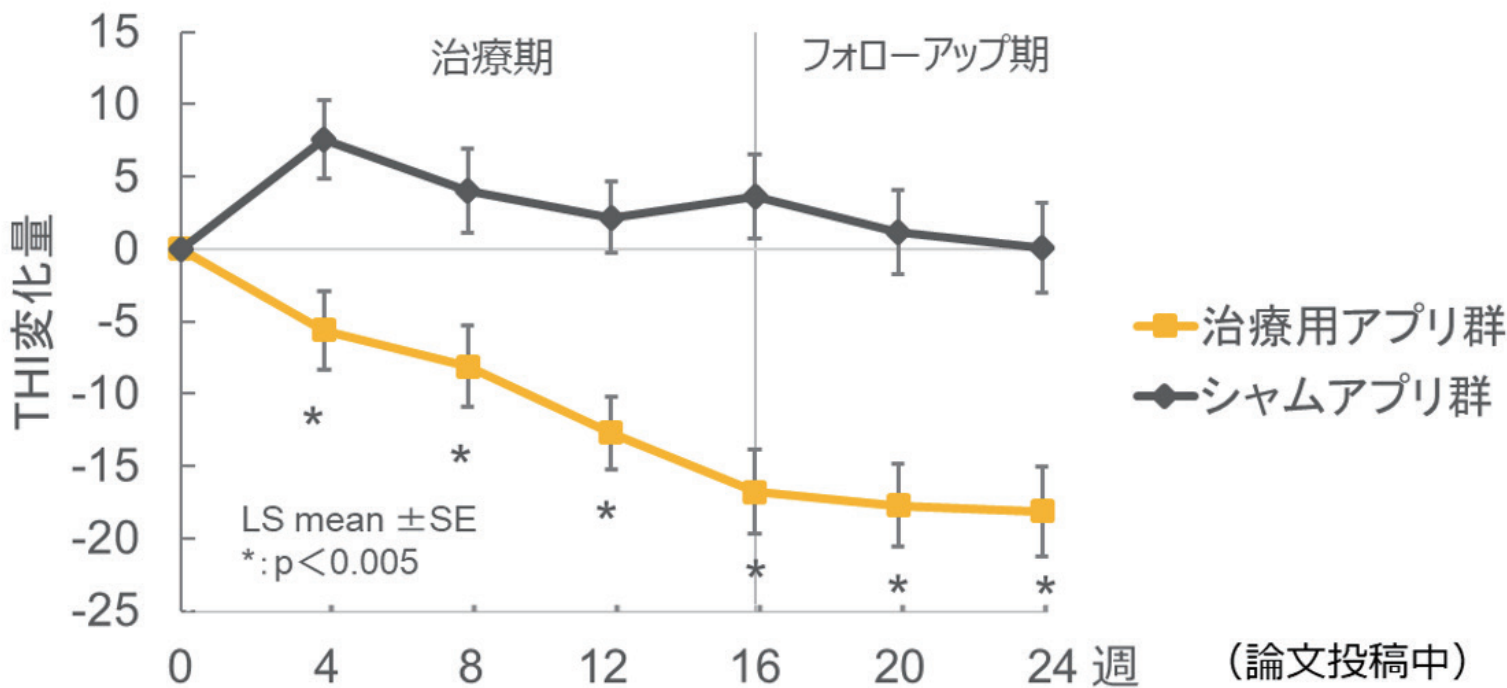
※本試験の統計解析は階層的評価に基づいて設計されており、
主要評価項目が達成されなかったことから参考情報としての解析結果

aTyr社と協議の上、今後の進め方を検討

特定臨床研究(jRCTs032230359) 結果概要

主要評価項目で有意な改善

研究名称	耳鳴患者を対象とした耳鳴治療用アプリの多施設共同ランダム化二重盲検比較試験(パイロット試験)
対象	苦痛を伴う慢性耳鳴患者(18歳以上75歳未満) 60例
主要評価項目	●研究用アプリ処方後16週時点における0週時点からのTHI※合計スコアの変化量 ※耳鳴苦痛度問診票 治療用アプリ群: -16.8 シャムアプリ群: 3.6 $p < 0.001$



その他 評価項目	●TFI変化量
	治療用アプリ群: -16.3 シャムアプリ群: 0.3 $p < 0.001$
	●NRS
	耳鳴のわずらわしさ $p < 0.001$ 耳鳴のコントロール $p < 0.001$
安全性	●不安、不眠に関するスコア
	HADS不安スコア $p = 0.017$
	HADS抑うつスコア $p = 0.082$
	AIS(アテネ不眠尺度) $p = 0.027$
治療用アプリ群において、有害事象や不具合等の事象は確認されなかった	

シャムアプリ: 医薬品開発におけるプラセボに該当するアプリ

2026年度上期に検証的試験の開始を目指す

※前回発表(1Q)からの変更点(2025年11月7日現在)

	製品名・開発コード	Ph1	Ph2	Ph3	申請	承認・上市
呼吸器	KRP-R120※ 間質性肺疾患治療薬			国際共同治験(終了)		
	KRP-S124 閉塞性睡眠時無呼吸治療薬	終了(バイエル社)	準備中 26年度開始を目指す			
	KRP-114VP 過活動膀胱治療薬	終了				
泌尿器						
自己免疫疾患	KRP-A225※ 全身性エリテマトーデス治療薬	準備中(ヒンジバイオ社) 25年開始予定				

●KRP-A218は開発戦略上の理由から開発中止を決定し、一覧から削除しました

DTx	製品名・開発コード	研究・開発 ¹⁾	検証的試験 ²⁾	申請	承認・上市
耳鼻科	KRP-DT123※ 耳鳴治療用アプリ		準備中 26年度上期開始を目指す		
呼吸器	KRP-DC125 慢性咳嗽治療用アプリ		準備中 26年度上期開始を目指す		

1) 研究・開発:主にアプリ開発、アプリの性能や有効性を確認
2) 検証的試験:主にアプリの臨床的意義を確認

導出品の 状況	開発コード	導出先	開発段階	備考
	KRP-M223	ノバルティス社	前臨床	●MRGPRX2拮抗作用 ●対象：マスト細胞が関与するアレルギー性疾患、炎症性疾患
	KRP-203	プリオセラ社	Ph3	●S1P受容体アゴニスト ●対象：急性骨髄性白血病で造血幹細胞を移植する患者 ●知的財産及び原薬等を譲渡(20年9月)

開発コード	契約先	開発段階	対象疾患	備考
BDT272	ビオドール社	Ph1 (フランス)	慢性疼痛	●2025年1月 プレスリリース ●FLT3※阻害剤 ●市場：約2,315万人(日本) ※FLT3:受容体型チロシンキナーゼファミリー

▶ Ph1試験結果を受けライセンス契約への移行判断(25年度中)

開発コード	契約先	開発段階	対象疾患	備考
CYR-064	シラーノ社	Ph2 (アメリカ)	感冒後嗅覚障害	●2025年2月 プレスリリース ●非特異的ホスホジエステラーゼ(PDE)阻害 ●市場：約100万人(当社試算)

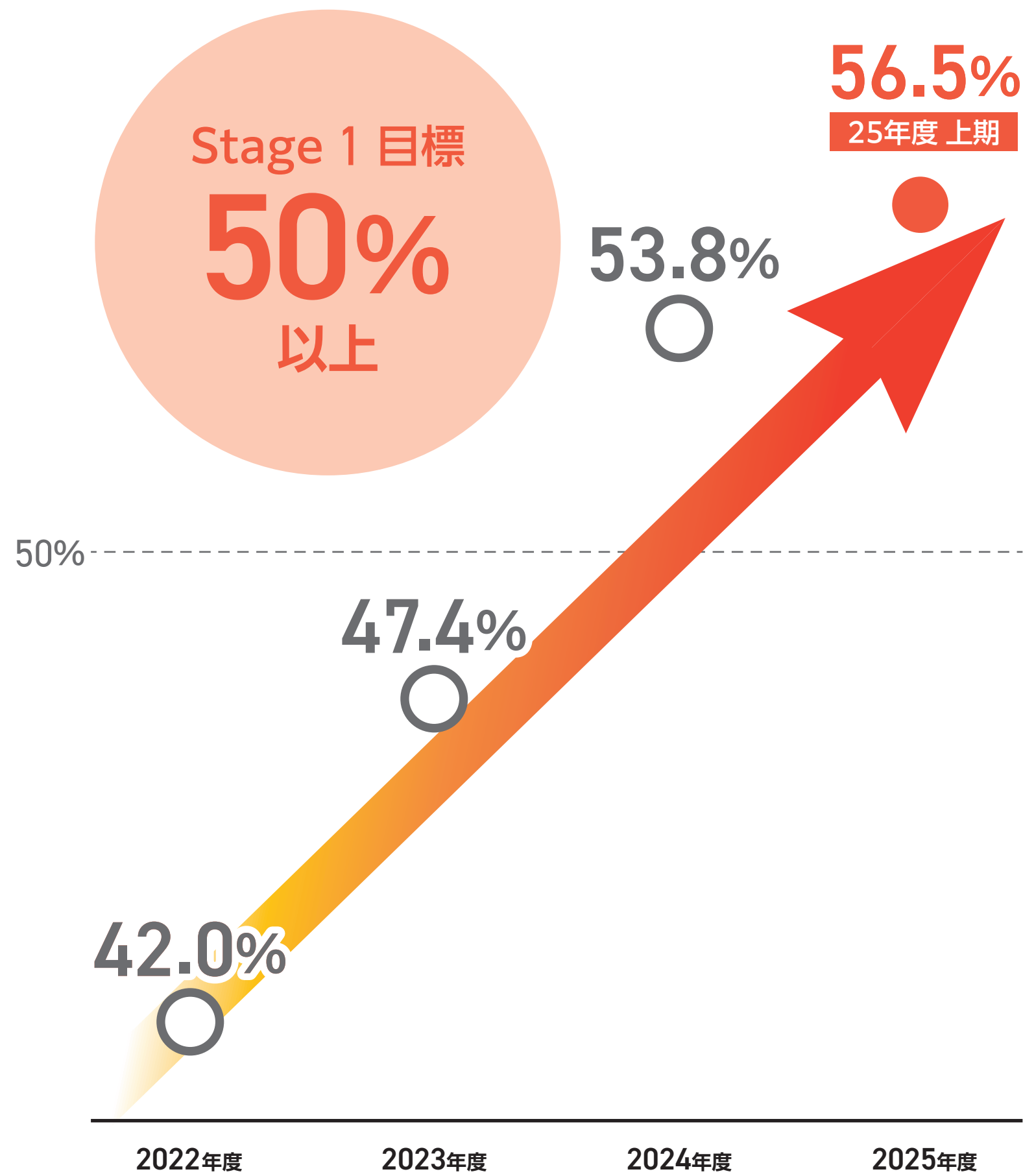
▶ Ph2試験結果を受けライセンス契約への移行判断(25年度中)

新薬比率の最大化

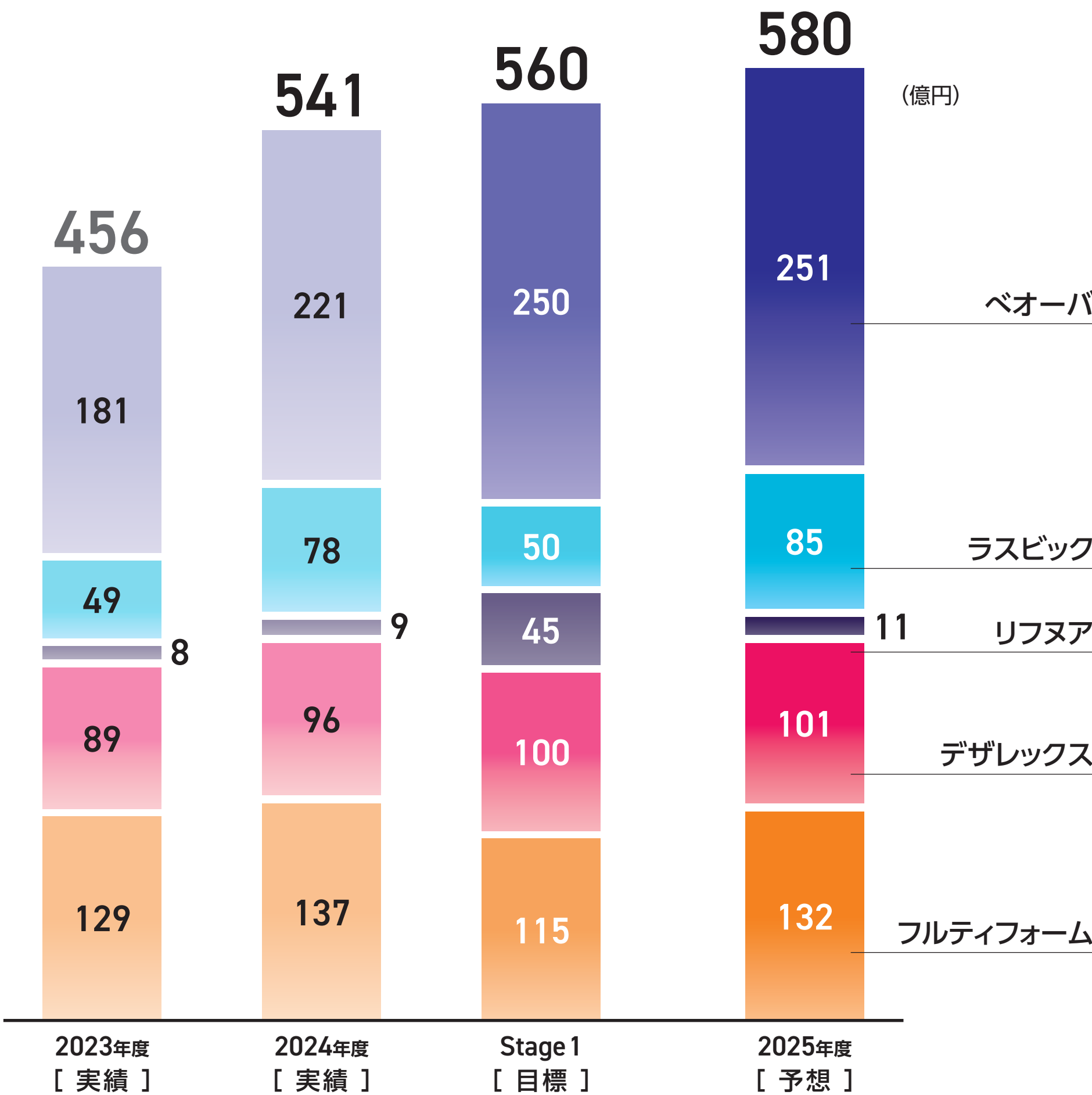
新薬比率の最大化



新薬比率 | 新薬比率は、目標を上回って推移



主力5製品売上 | 2025年度上期計画を達成。順調に進捗
計画 256億円 | 実績 263億円 | 達成率 102.5%



主力製品の取り組み

[主力製品] ベオーバ(過活動膀胱治療剤)



■ 過活動膀胱(OAB)治療剤市場

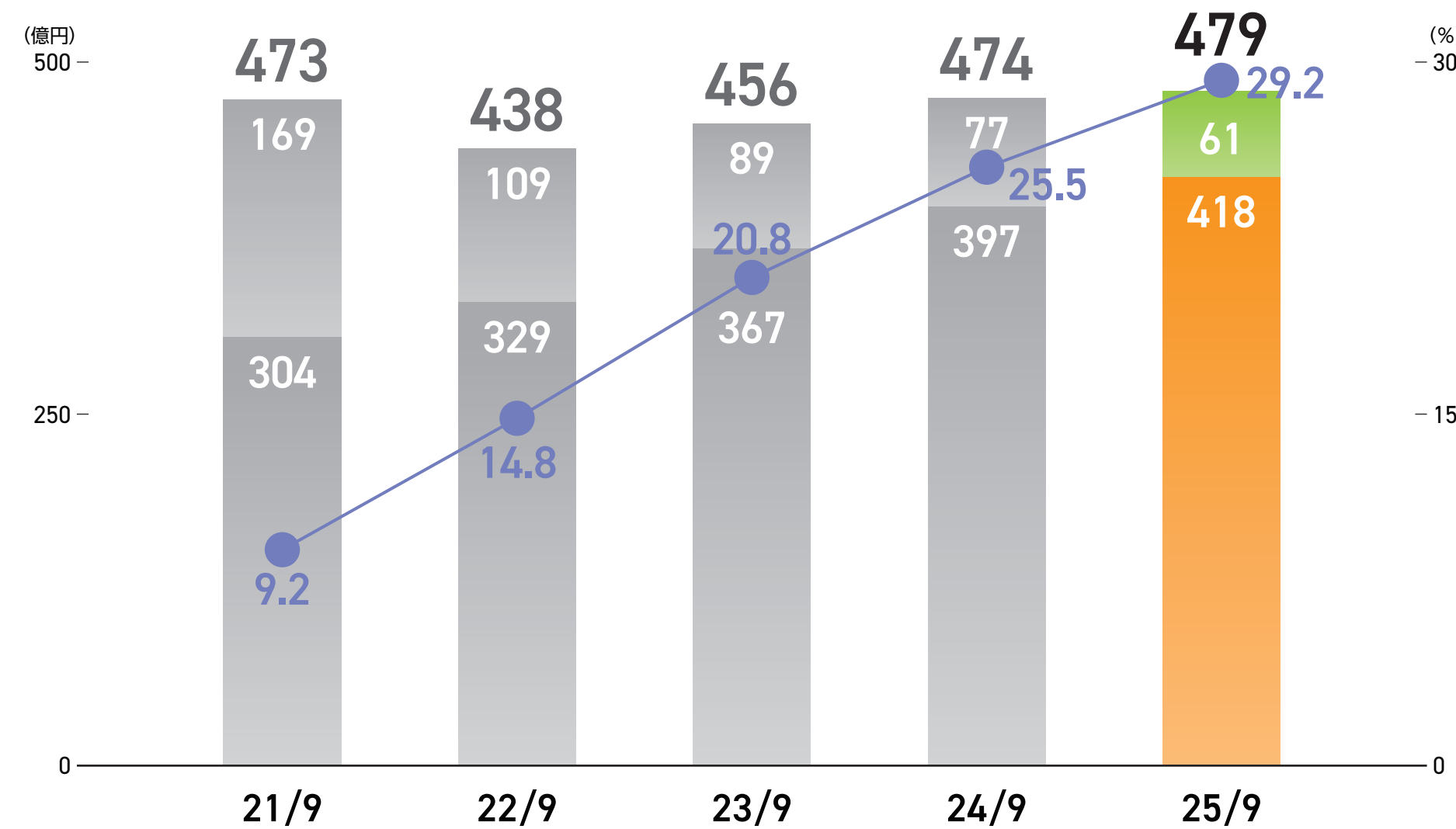
4-9月

■ 抗コリン薬
■ β3受容体作動薬

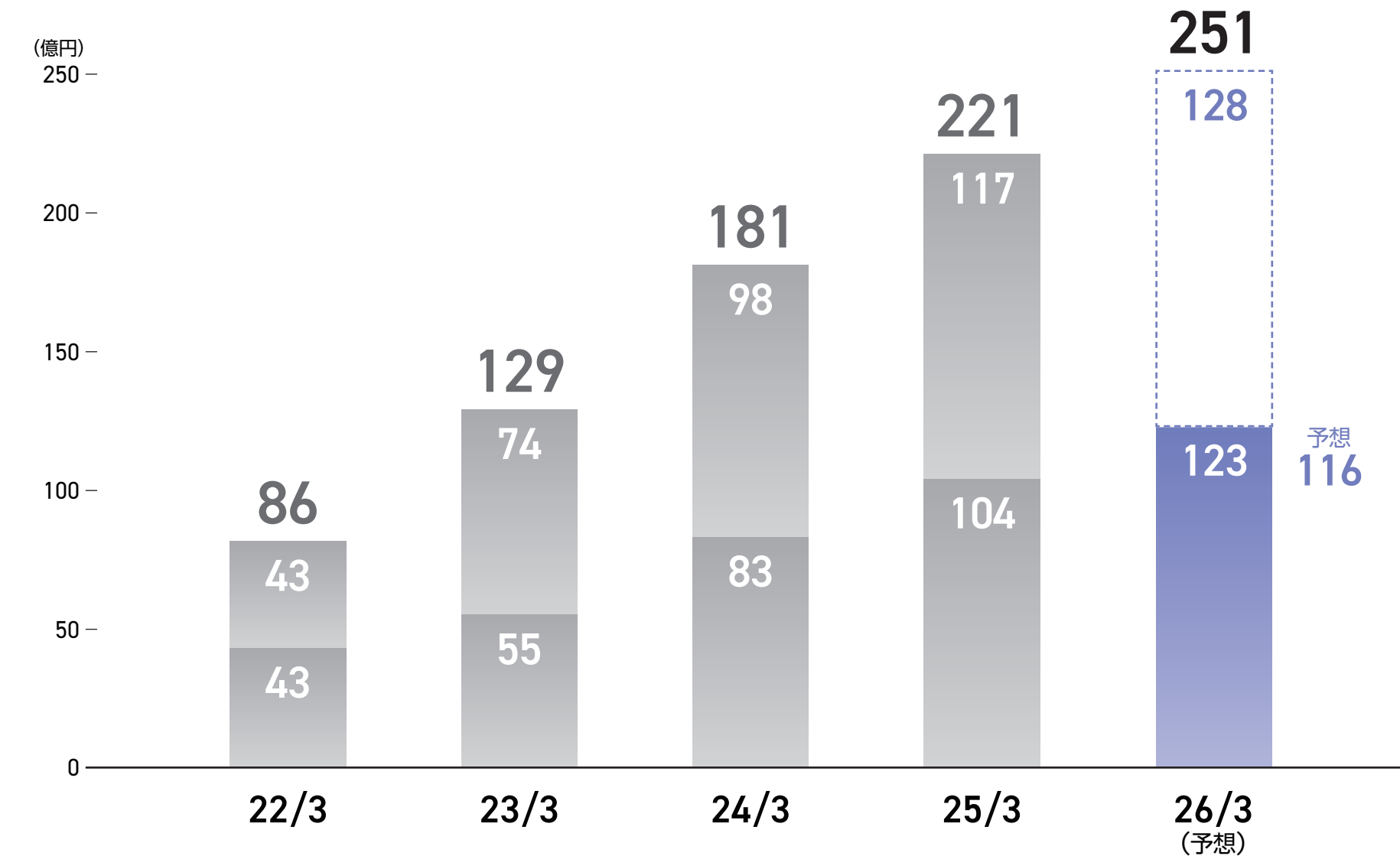
● ベオーバシェア
(自社販売分)

■ 売上高

下期
上期



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021年-2025年(各4-9月)を基に自社分析 無断転載禁止



市場概況

- 過活動膀胱治療剤市場：1.2%拡大^{注1}
- β3アドレナリン受容体作動薬市場の拡大^{注1}

中長期 市場見通し

- OAB患者数は増加傾向
- 薬価改定及び後発医薬品の影響等はあるもののβ3アドレナリン受容体作動薬市場は拡大

状況 26年3月期上期

- OAB市場売上No.1を獲得^{注2}
- 新規患者獲得率及び患者シェアNo.1を獲得^{注2}
[2025年4月薬価基準改定率：▲4.32%]

取り組み 26年3月期

- 一般内科での患者シェア拡大
- HP泌尿器科の面談率向上と継続的な面談機会創出
- 受診率増加に向けた疾患啓発

注1: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年4-9月、2025年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止

注2: 併売会社との2社合計
Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2025年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止
IQVIA Rx 2025年9月を基に自社分析 無断転載禁止

[主力製品] ラスビック(ニューキノロン系抗菌剤)

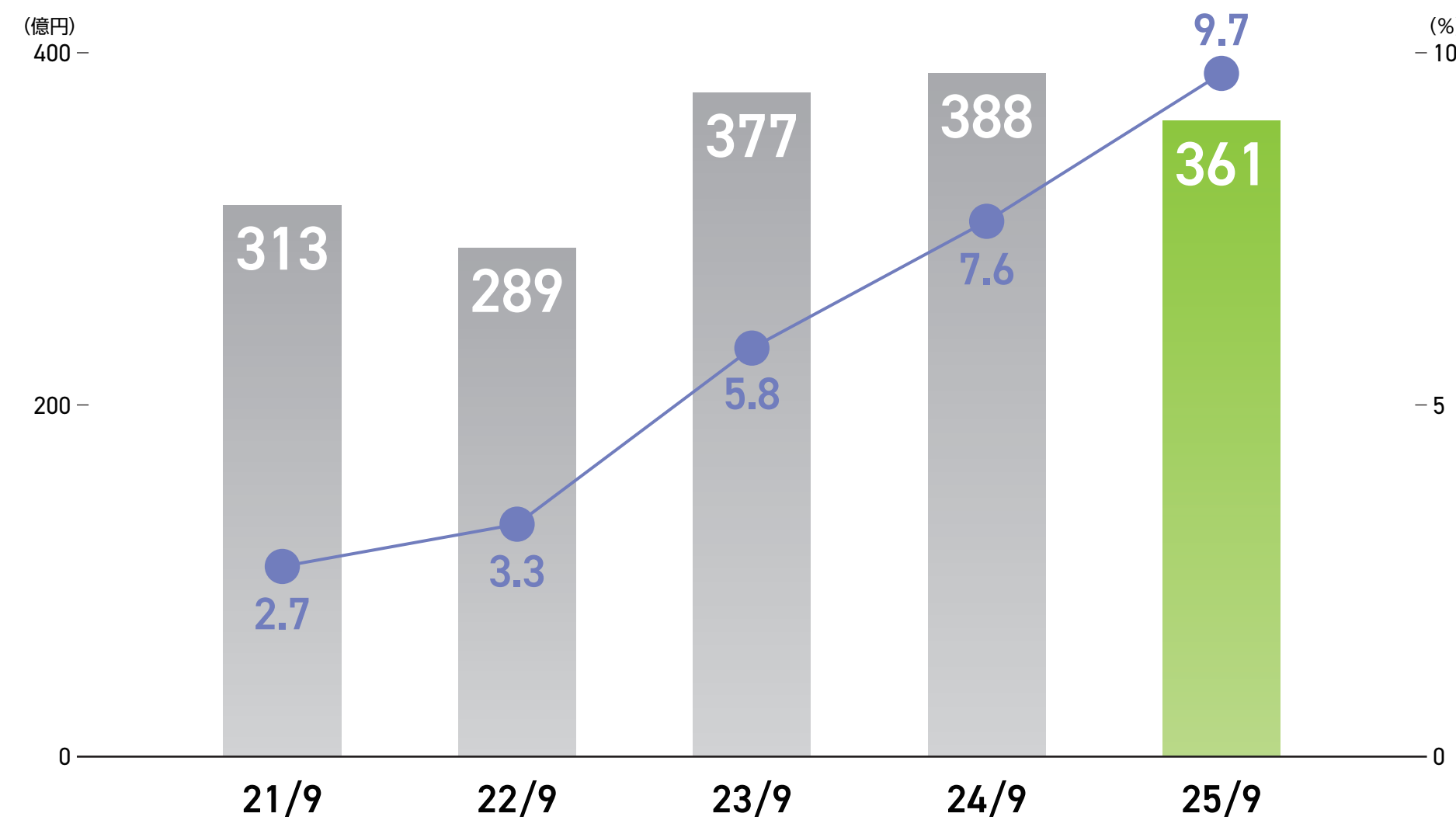


■経口抗菌剤市場

4-9月

■市場売上

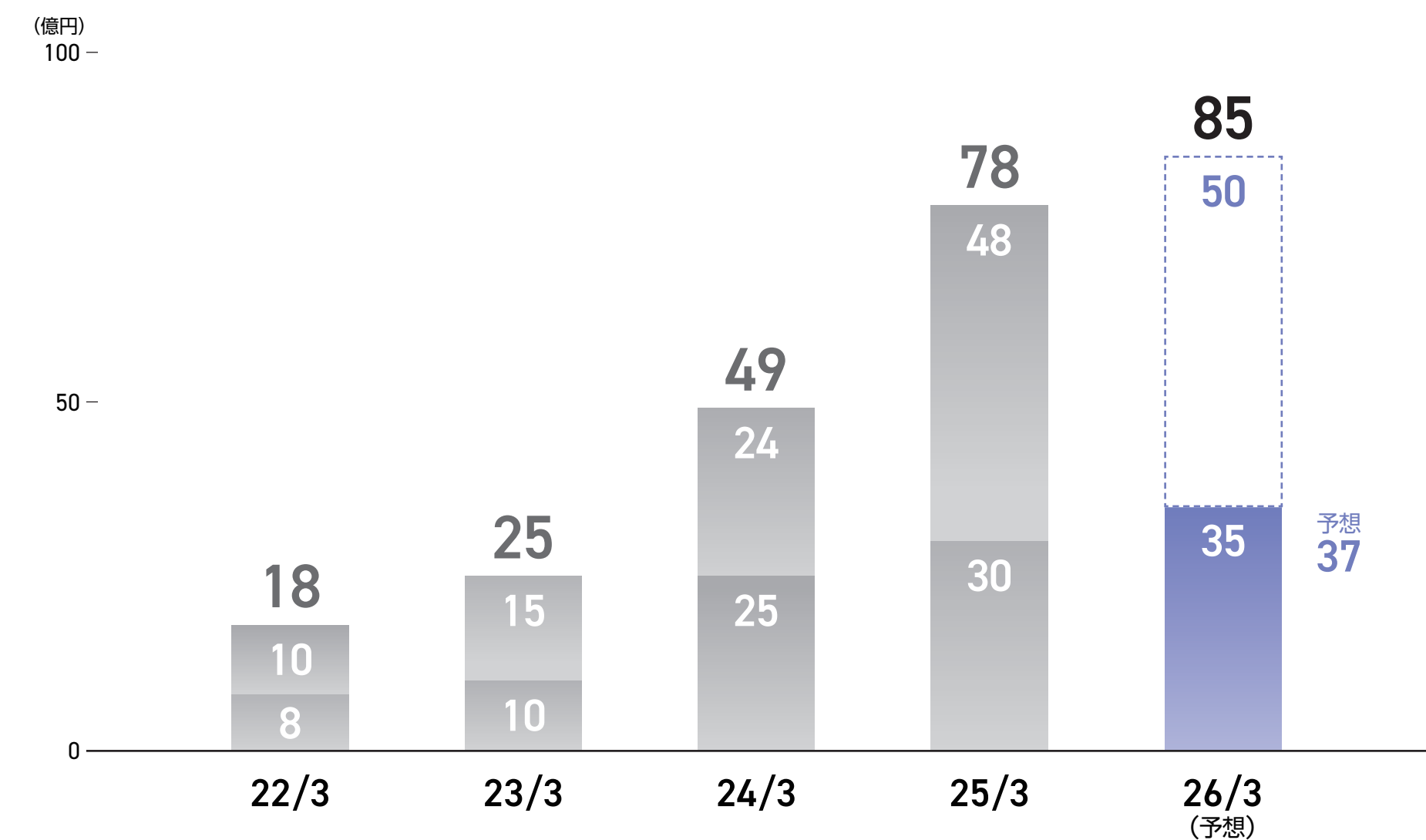
●ラスビックシェア



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021年-2025年(各4-9月)を基に自社分析 無断転載禁止

■売上高

下期
上期



市場概況

- 経口抗菌剤市場：6.9%縮小^{注1}
- 昨年の肺炎マイコプラズマ感染症等流行の反動減

中長期 市場見通し

- AMR対策の推進により
呼吸器・耳鼻科での経口抗菌剤の処方抑制傾向

状況
26年3月期上期

- 経口NQ市場における売上シェアNo.1獲得^{注1}
[2025年4月薬価基準改定率：▲6.21%(錠)、0.00%(静注)]

取り組み
26年3月期

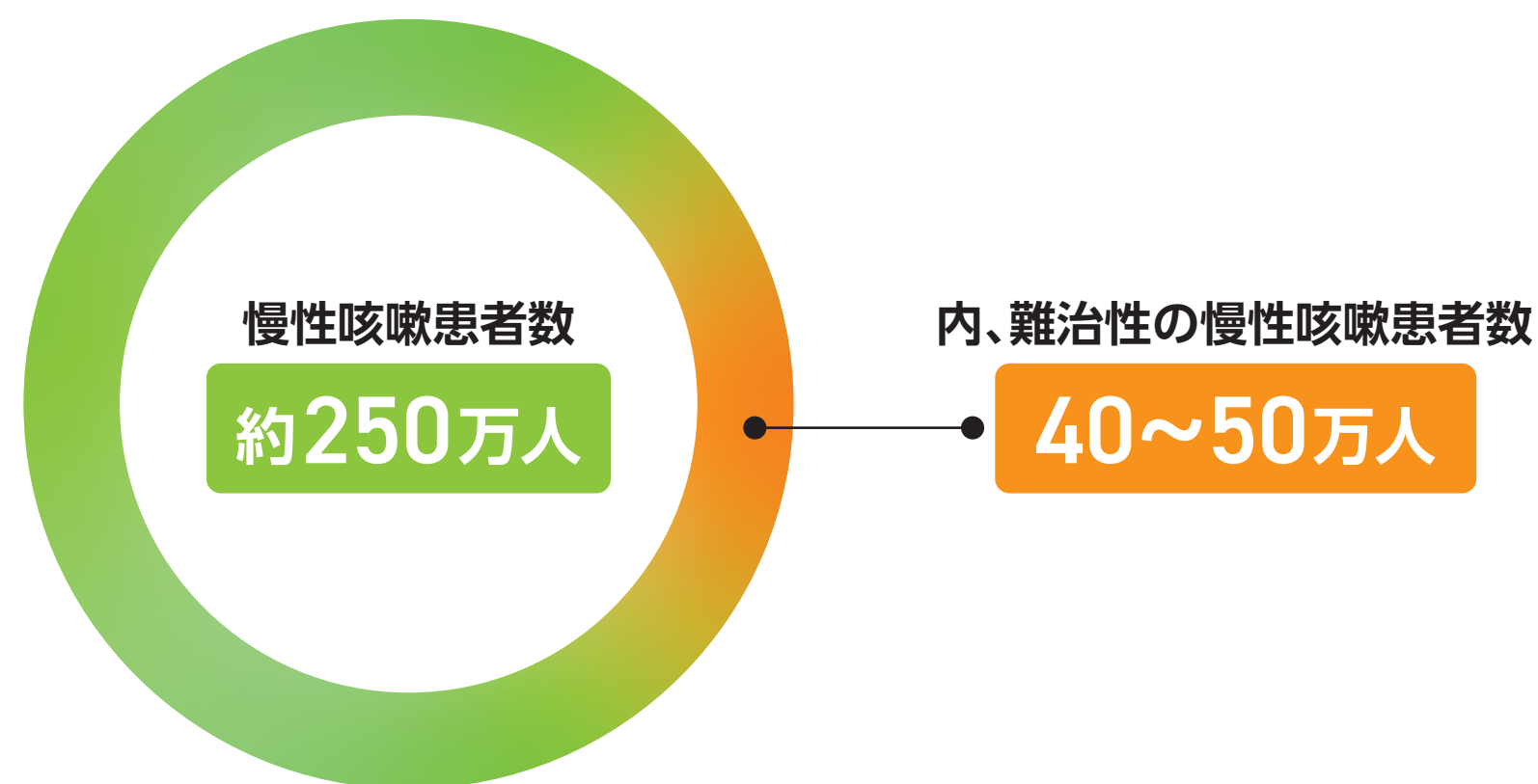
- 各ガイドラインに沿った治療と治療薬の選択を広く啓発
- ラスビックの独自性と新しいポジションの明確化
HP：大学病院を中心にエリア基幹病院での新規採用拡大
GP：AMR対象疾患(副鼻腔炎、扁桃炎、咽頭喉頭炎、急性気管支炎)、肺炎での処方提案を推進

注1：Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年4-9月、2025年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止

[主力製品] リフヌア(難治性慢性咳嗽治療薬)



■推定患者数(有症率から推定)



■咳嗽・喀痰の診療ガイドライン



改訂のポイント(抜粋)

- 咳嗽・喀痰に対する治療の推奨度を明記
- 咳過敏症(Cough hypersensitivity)の重要性
- 難治性慢性咳嗽について詳説

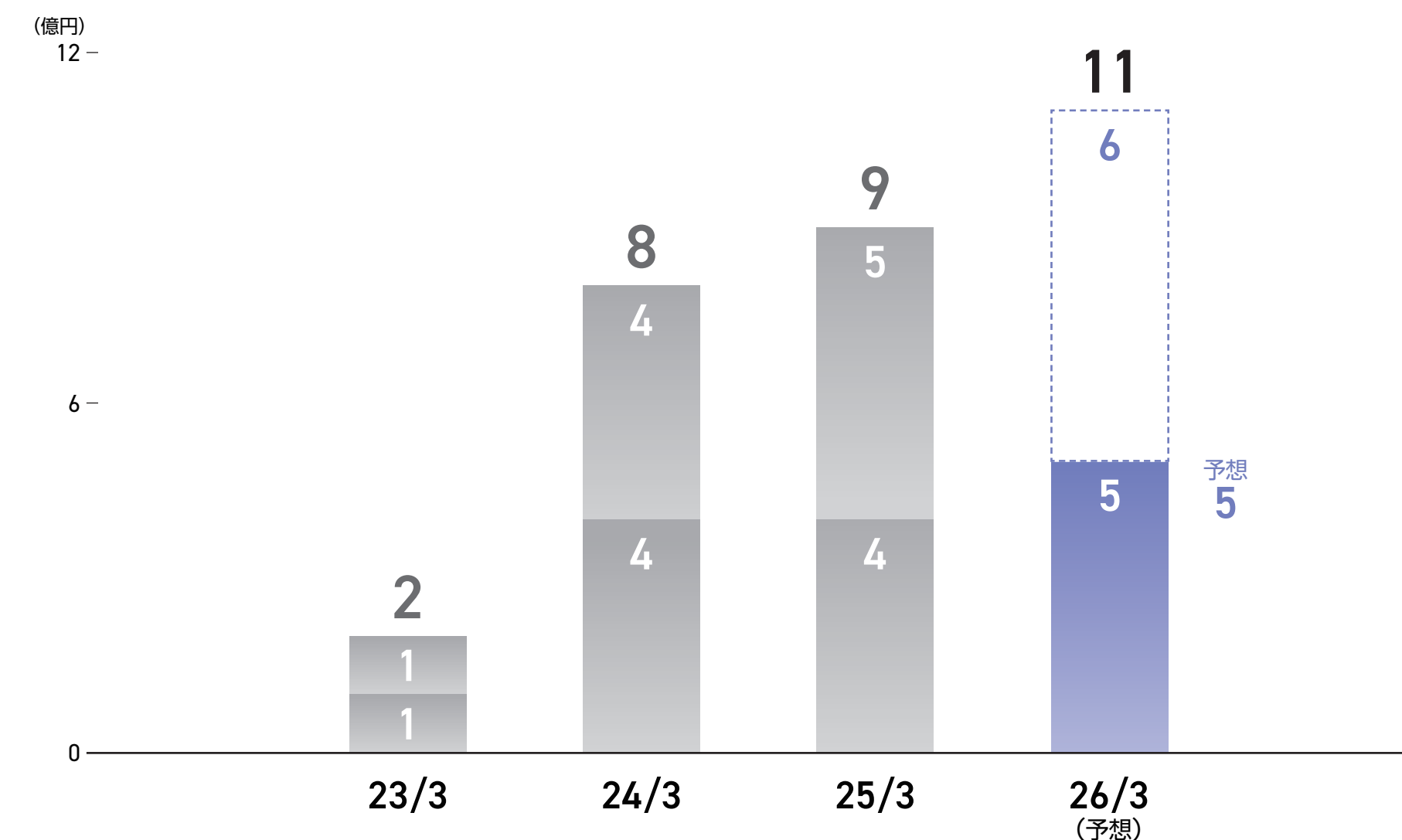
日本呼吸器学会, 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025, p.x v. メディカルレビュー社より一部改変

巻頭フローチャート

成人遷延性・慢性咳嗽への対応に
P2X3受容体拮抗薬が追加

■売上高

下期
上期



状況
26年3月期上期

- 早期の効果発現及び味覚関連の有害事象により服薬継続日数が短い
- 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025年4月に発刊
[2025年4月薬価基準改定率：0.00%]

取り組み
26年3月期

- 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025及び新たなエビデンスの活用
- 製品特性の理解促進(神経の知覚過敏による咳を抑制等)
- 服薬継続日数向上への取り組み(適切な服薬指導の啓発)

[主力製品] デザレックス(アレルギー性疾患治療剤)



■抗ヒスタミン剤市場

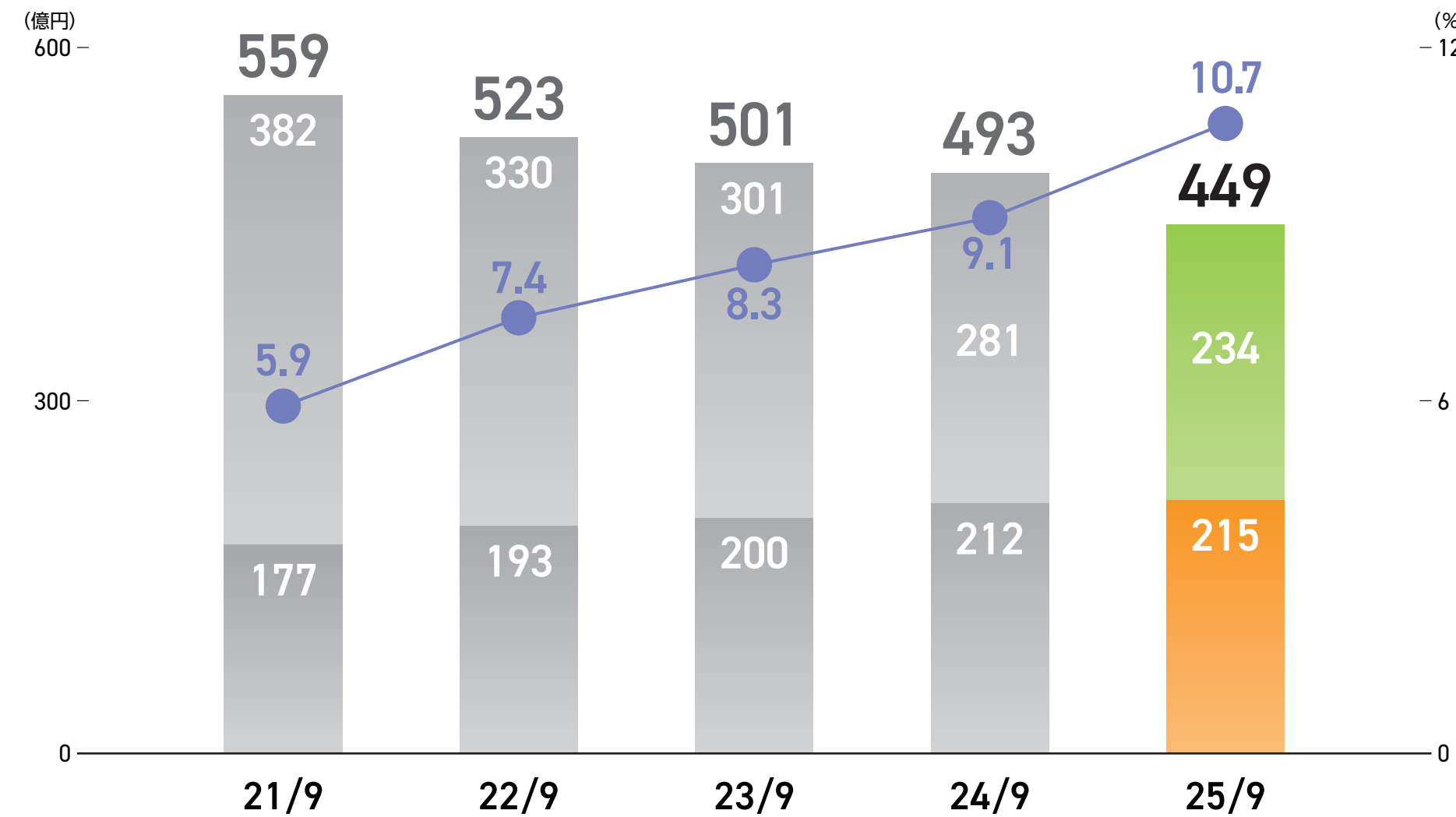
4-9月

長期収載品・後発医薬品
新薬

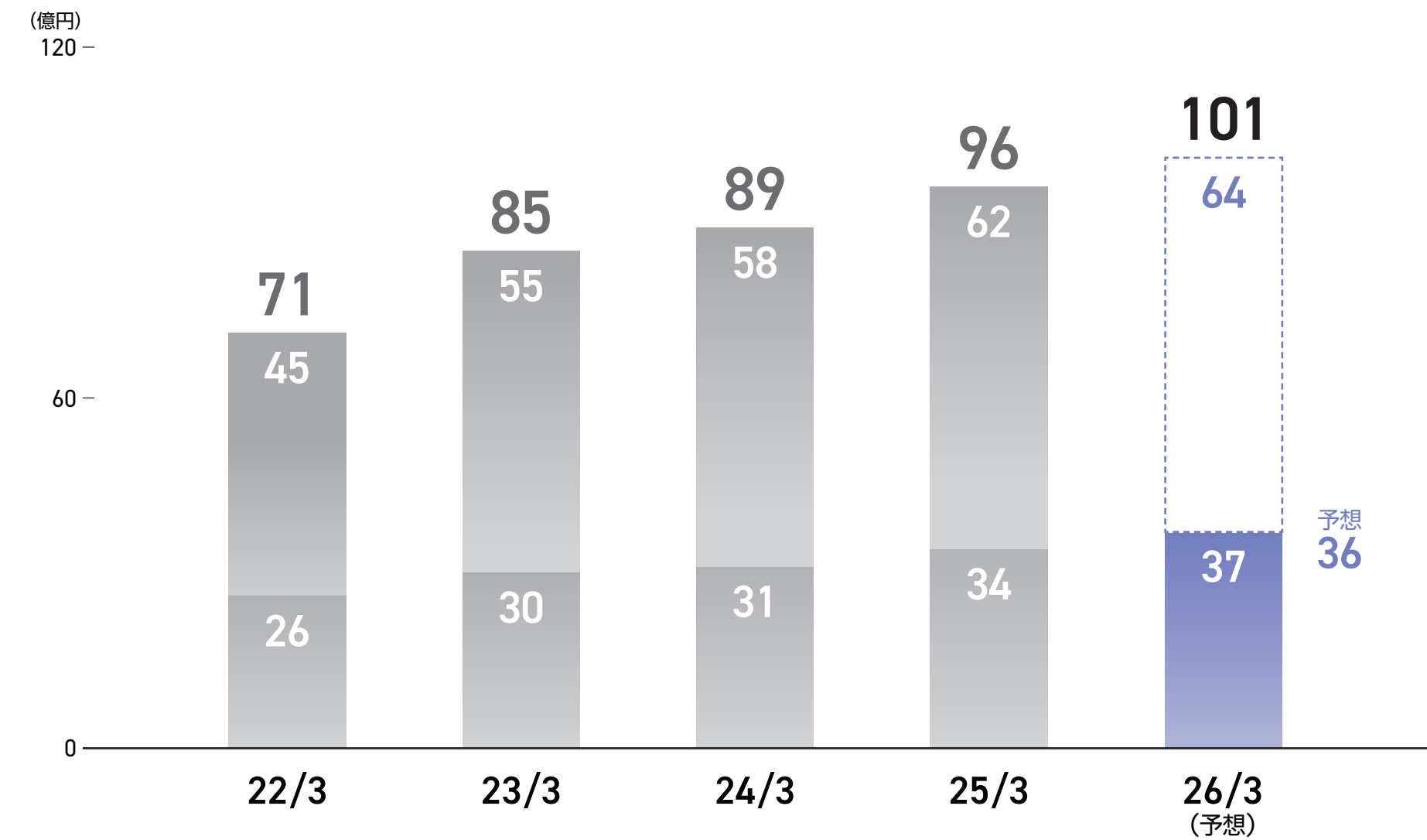
デザレックスシェア

■売上高

下期
上期



出典: Copyright ©2025 IQVIA. JPM 2021年-2025年(各4-9月)を基に自社分析 無断転載禁止



市場概況

●抗ヒスタミン剤市場：8.7% 縮小^{注1}

中長期 市場見通し

●患者数は増加傾向が継続するものの、
薬価改定及び後発医薬品の影響等により市場は縮小傾向

状況 26年3月期上期

●売上は順調に推移
●耳鼻科処方率No.1^{注2}
[2025年4月薬価基準改定率：▲9.16%]

取り組み 26年3月期

●耳鼻科、内科への処方付けの促進
●有効性と使いやすさを兼ね備えた薬剤として
ポジショニング確立を目指す

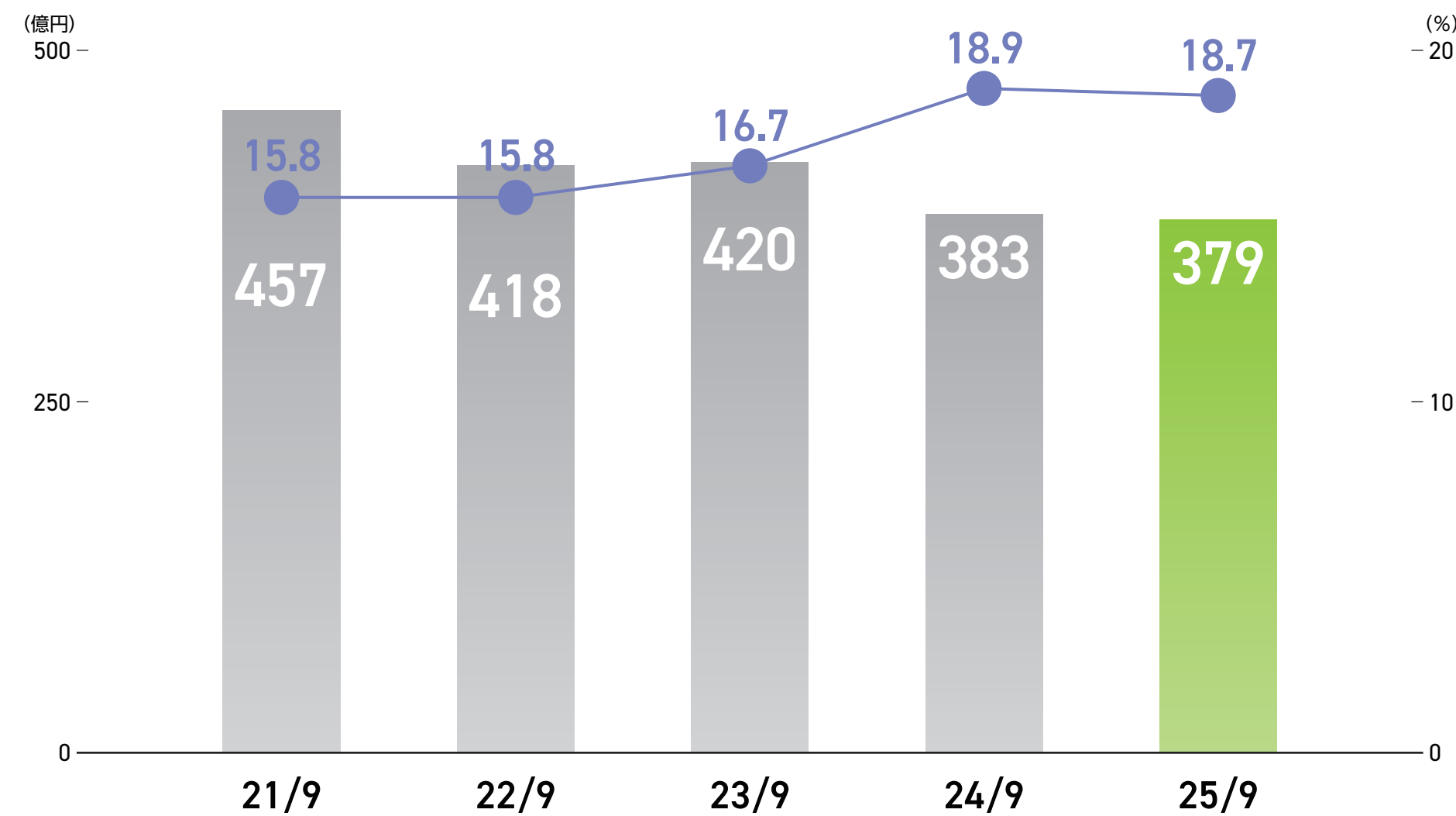
注1: Copyright ©2025 IQVIA. JPM 2024年4-9月、2025年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止

注2: Copyright ©2025 IQVIA. IQVIA Rx 2025年9月を基に自社分析 無断転載禁止

[主力製品]フルティフォーム(喘息治療配合剤)

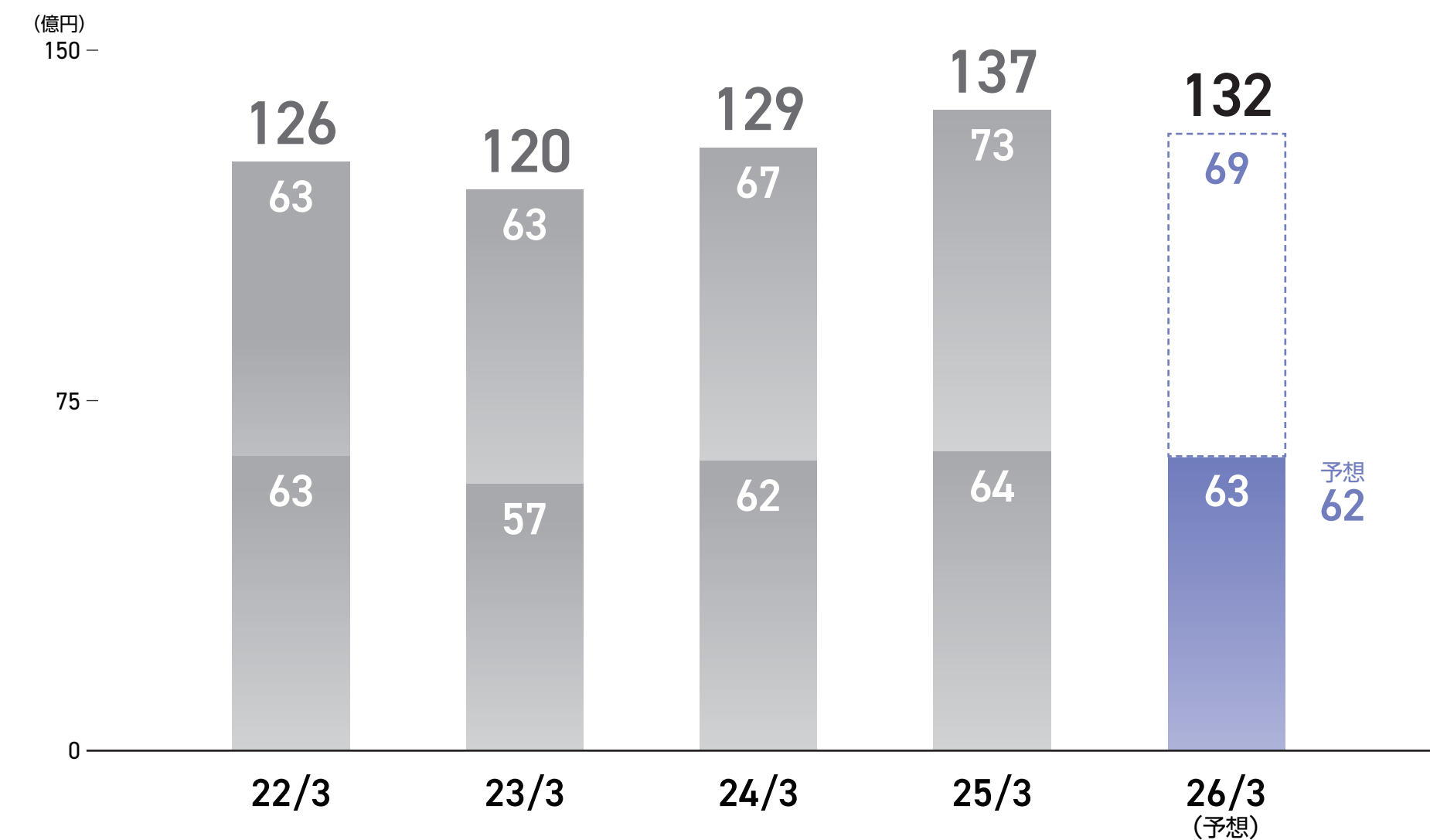


■ICS/LABA配合剤市場 | 4-9月 | ■市場売上 | ●フルティフォームシェア



出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2021年-2025年(各4-9月)を基に自社分析 無断転載禁止

■売上高 | 下期
上期



市場概況

- ICS/LABA配合剤市場: 1.1%縮小^{注1}
- コロナ禍後における受診行動の回復はあるものの、後発医薬品への切替が促進

中長期 市場見通し

- 患者数は増加傾向であるものの、薬価改定及び後発医薬品の影響等により市場は横ばい傾向

状況
26年3月期上期

- 売上は横ばい、数量は約3%増加(前年比)
- 数量シェア18.6%(24年9月) ⇒ 19.3%(25年9月)^{注2}
[2025年4月薬価基準改定率: ▲5.59%]

取り組み
26年3月期

- 吸気力が弱い患者に適したエアゾール製剤として有用性を訴求
- リフヌアのプロモーション活動との相乗効果による処方拡大

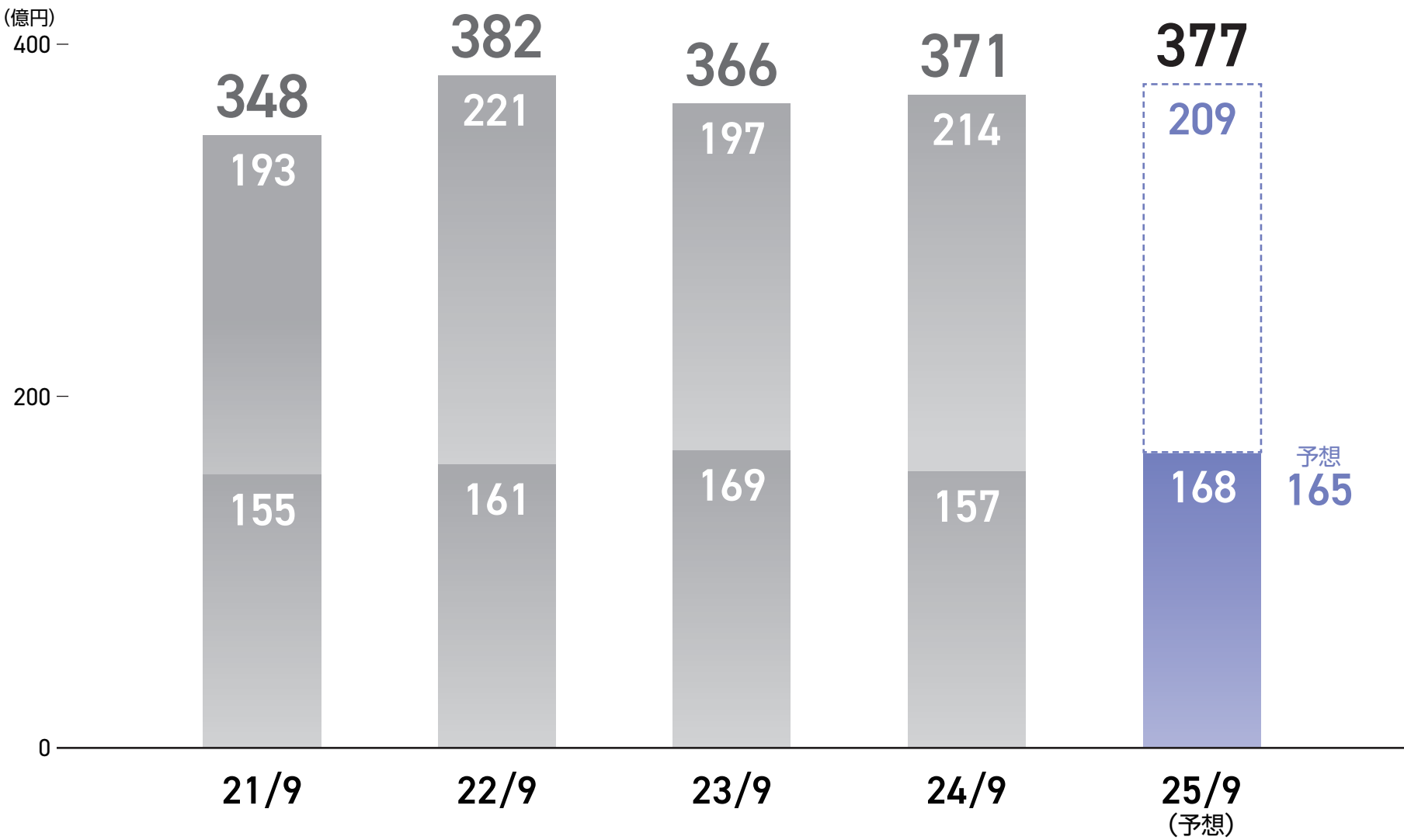
注1: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年4-9月、2025年4-9月を基に自社分析 無断転載禁止

注2: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2024年9月、2025年9月を基に自社分析 無断転載禁止

新医薬品事業と相乗効果のある健康関連事業の推進

■後発医薬品売上高

下期
上期

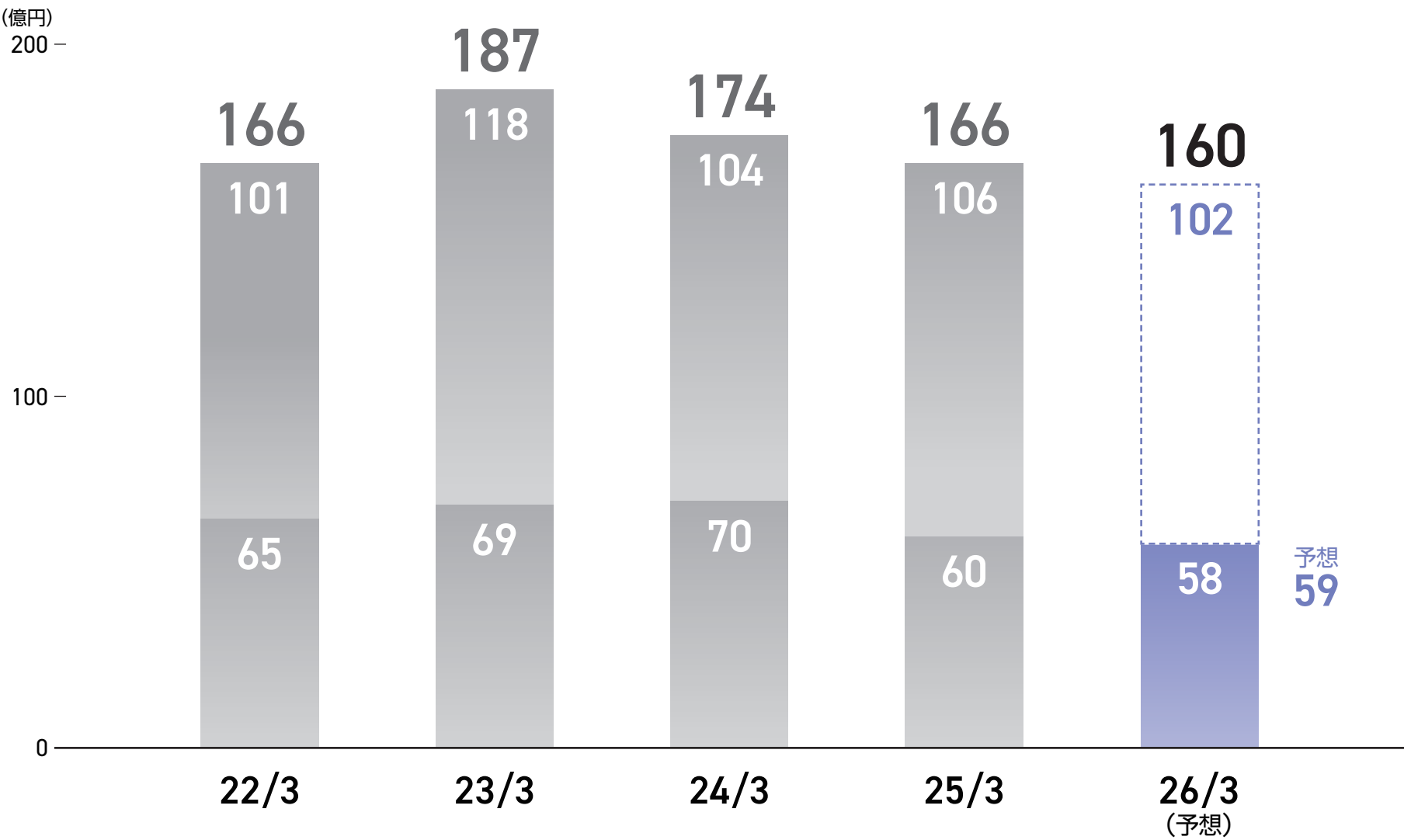


状況
26年3月期上期

- 長期収載品の選定療養の影響による数量伸長
- 24年度の追補収載品及び重点品目の売上拡大
- 薬価改定等によるAG品目の売上減少

■左記の売上高のうちAG合計 (3製品)

下期
上期



状況
26年3月期上期 (AG)

- 薬価改定等による売上減少
- GE内AGシェアは50%以上を継続

■ 株主還元について

株主還元方針

株主還元は、DOE (株主資本配当率) を勘案して、安定した配当を継続します

配当の推移と予想

	24年3月期 中間期	25年3月期 中間期	26年3月期 中間期 予想
1株当たり 中間配当金	20円 (年間配当52円)	20円 (年間配当57円 うち特別配当5円)	20円 (年間配当57円)

- 中間配当金20円につきましては、11月7日の取締役会で決議されました
- 2025年5月12日に公表した配当予想(年間57円／株)の変更はありません

■ 政策保有株式縮減の進捗状況

縮減目標

2030年度までに、連結純資産比率10%未満

2025年度 上期は、1銘柄を縮減
前倒しで連結純資産比率10%未満を目指す

	2022年 3月末	2023年 3月末	2024年 3月末	2025年 3月末	2025年 9月末	増減
銘柄合計	25	21	20	20	19	-1
上場株式	14	12	11	11	10	-1
非上場株式	11	9	9	9	9	0

参考：2025年9月末時点の連結純資産比率：11.9%

●将来見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

